

Soldiers Left Behind

〈トモダチ作戦〉

米兵の被ばく訴訟 最新レポート

—米国の現状・「小泉基金」・そして福島のために—

報告：エイミ・ツジモトさん

9月7日（金）18時30分～（開場18時）

横須賀・産業交流プラザ・第一研修室

京急・汐入駅下車徒歩1分、横須賀芸術劇場のビルの3階

参加費：500円

〈主催：3・11 トモダチ作戦兵士の被ばくを考える会〉

福島・広島など全国で学習会を開催中。9/17にも大阪で開催予定です。

横須賀担当：問合せ・090-4835-6681 沢園（サワゾノ）まで

2011年3月11日の東日本大震災から8年目を迎えています。

当時「トモダチ作戦」として、被災地の支援活動に携わった原子力空母ロナルド・レーガンなどの米兵たちが原発事故で被ばくし、著しい健康被害を受け、いま困窮の中にあります。

その空母レーガンの現在の母港である横須賀で、この問題は忘れてはならないことです。

同時に、原発事故のため移住を余儀なくされた福島の方々の裁判も各地で進んでおり、神奈川県では先月7月に結審し、来春の地裁判決を迎えます。

今回は、被ばく兵士の実態を知らせるべく行動しているエイミ・ツジモトさんから米国での裁判の進行、そして小泉純一郎元首相が立ち上げた支援基金の現況を報告します。ツジモト氏は本年被ばく兵士の現況をまとめた「漂流するトモダチ（共著）」を刊行されています。この機会に皆様のご参加をお待ちします。



現在、横須賀を母港とする
原子力空母「ロナルド・レーガン」で
8年前に何が起きていたのか。